令和5年度　林業試験研究推進計画書

１課　題　名	（大項目）	木材利用の拡大（建築士等への戦略的アプローチ）	
	（小項目）	マーケティング戦略の強化	
	（課題名）	土木用木製構造物に関する研究 （県産材を活用した木製構造物の耐久設計方法の確立）	
２研究期間	令和元年度～5年度	３ 総括責任者	資源利用課　沖　公友

４　背景と目的

これまで県内で施工された木質外構施設の老朽化が進む中、劣化調査点検の結果に伴う対策の内容や劣化判定の根拠等が不明瞭であるため、施設の種類や箇所によりその対応が異なり、場当たり的な対応を余儀なくされているのが現状である。

本研究では、県内で施工された外構用木製構造物の劣化調査とその修繕方法を試験検討することにより、経年劣化を考慮した木材加工や構造手法を確立することを目的とする。また、そのような概念を当初から取り入れた、木製構造物の耐久設計方法を施工試験、維持管理試験を通じ、総合的見地からその有効性を探る。

５　到達目標

1）既存の木質外構施設の劣化調査による現状把握と、その修繕対応による安全性の確保
2）木質外構施設の定期的な点検や修繕方法など維持管理指針の提示による信頼性の確保
3）外構施設の設置環境、**用途に応じた木質化指針、及び耐久設計法の普及**

６　研究年次計画

試　験　計　画		担当者
試 験 項 目・試 験 内 容	試験年度	
1.　既存木質外構施設劣化調査 1）耐久性（腐朽）診断方法の確立 簡易診断（目視）判定基準 精密診断（機械）判定基準 2）耐候性（表面劣化）診断方法の確立 表面劣化（塗装）判定基準	R元～R5	資源利用課 沖　公友 盛田貴雄 溝口泰彬 竹嶋一紗
2.　既存木質外構施設補修試験 1）耐久性（腐朽）補修試験 構造上重要な部分における効果的補修方法 構造的要因による腐朽部における改良方法 2）表面劣化（塗装）補修試験 外構施設の設置環境と補修方法 補修作業における素地表面状態と耐候性能	R元～R5	
3.　屋外木材塗料耐候性試験 1）塗料面の屋外暴露試験 新しい木材用塗料の屋外暴露試験（JIS K 5600） （シリコン系塗料、液体ガラス系塗料）	R3～R5	

７　当年度研究実施計画

木質外構施設劣化調査、木質外構施設補修試験、屋外木材塗料耐候性試験